

平成27年度 「大阪市統一テスト」における 今宮中学校の結果の分析について

大阪市による「大阪市統一テスト」について、平成27年10月15日（木）に、第3学年を対象として実施しました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校がテスト結果やテスト結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、テスト結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

1 テストの目的

- ① テスト結果を個々の生徒の評定（内申点）に活用し、平成28年度入学者大阪府公立高等学校入学者選抜における調査書に記載する評定の公平性、信頼性を確保する。
- ② 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。

2 テストの対象

- ・ 原則として、大阪市立中学校及び特別支援学校中学部の第3学年

3 テストの内容

- ・ 国語、社会、数学、理科及び英語の5教科

平成27年度「大阪市統一テスト」検証シート

学校名	大阪市立今宮中学校
-----	-----------

生徒数(人)	52
--------	----

平均正答率(点)

	国語	社会	数学	理科	英語
学校	64.4	54.0	54.1	50.4	56.3
大阪市	64.7	57.4	59.3	55.6	59.8

結果の概要

国語が大阪市平均とほぼ同じ以外、社会、数学、理科、英語については大阪市平均の90～94%であった。得点分布で見ても、大阪市平均のグラフと変化は似ている感じではあるが、高い方で少なく、低い方で多い。低い方にシフトしている状況である。全体で大阪市平均の94%になる。

成果と今後取り組むべき課題

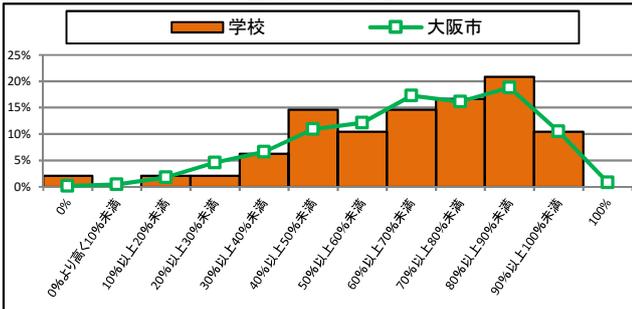
概要で述べたように、大阪市と比べて、全体的に少し低くシフトした得点分布である。特に得点分布の低い方1/3ないし1/4の層の引き上げが最重要課題であろう。

成果として教科別に課題を見ると、国語は「書くこと」では全市をかなり上回っている。社会では、「公民」では全市平均を上回っている。数学は「活用」では全市平均に迫っている。理科でも「生命」領域では全市に迫っている。英語では「書くこと」では全市平均を上回っている。一方課題については、国語では「話すこと・聞くこと」「読むこと」に課題がある。社会では「地理」「歴史」領域に、数学では「数と式」「関数」領域に課題がある。理科では「粒子」「地球」領域が、英語では「聞くこと」「読むこと」が苦手であることが分かった。全般的な底上げを図りつつ、弱点克服を進める必要がある。

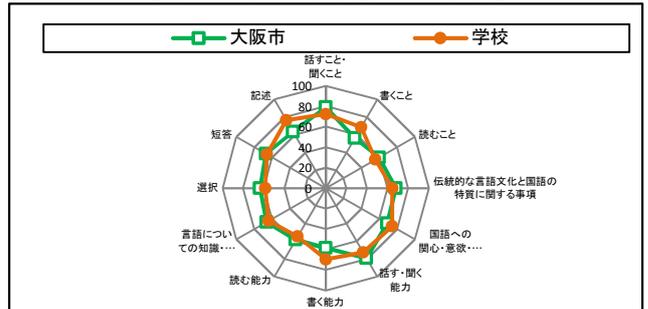
【各教科の得点分布と領域・観点・問題形式別平均得点の分布】

【国語】

【得点分布】

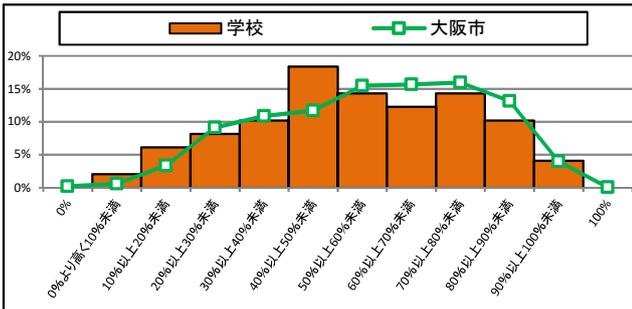


【領域・観点・問題別の分布】

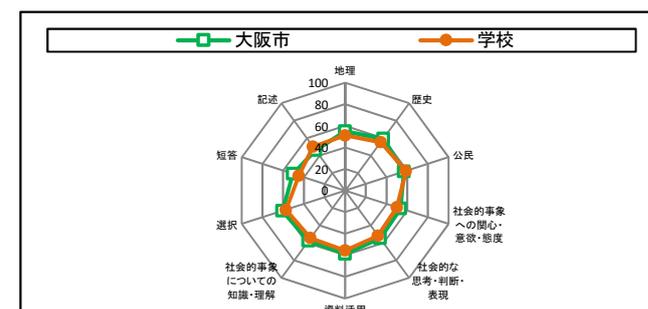


【社会】

【得点分布】

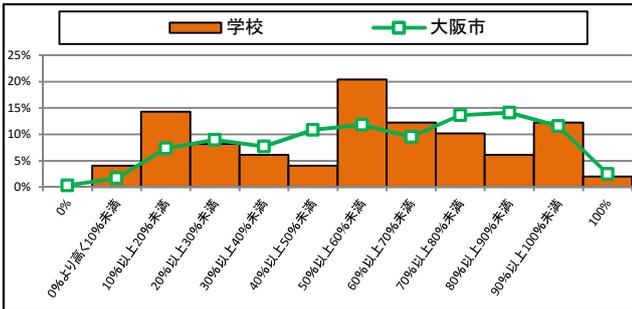


【領域・観点・問題別の分布】

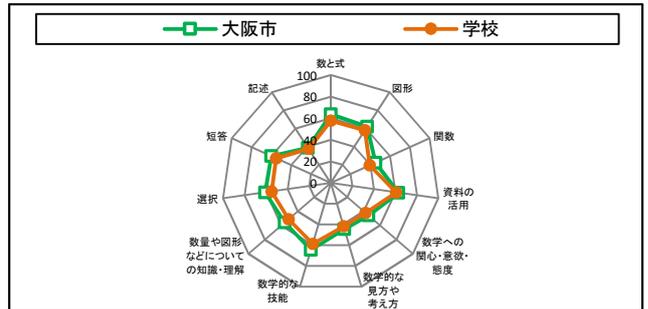


【数学】

【得点分布】

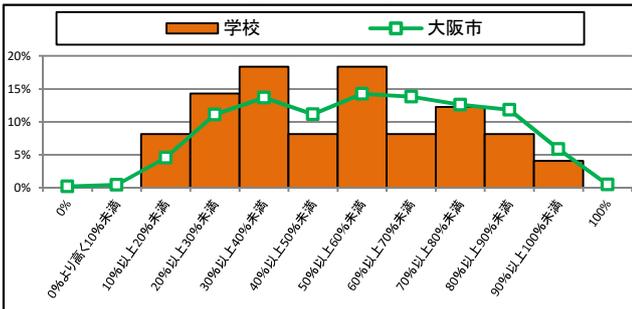


【領域・観点・問題別の分布】

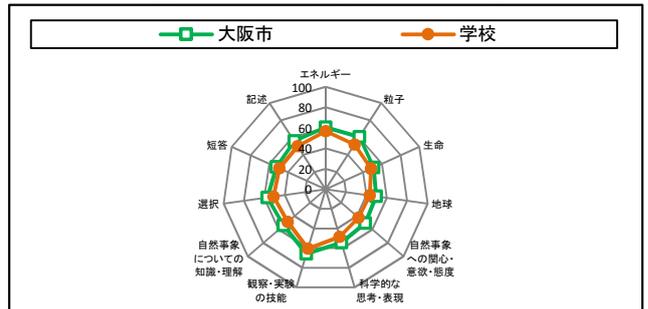


【理科】

【得点分布】

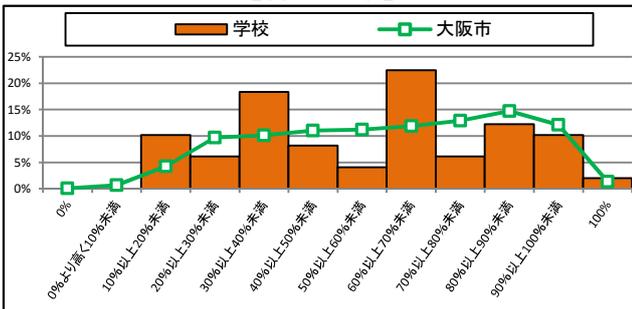


【領域・観点・問題別の分布】



【英語】

【得点分布】



【領域・観点・問題別の分布】

